

仏像大系全11巻

本／書／の／特／長

- 1 図でみる 仏像篇
- 2 図でみる 仏像篇
- 3 図でみる 仏像篇
- 4 図でみる 仏像篇
- 5 写真でみる 仏像篇
- 6 写真でみる 仏像篇
- 7 写真でみる 仏像篇
- 8 写真でみる 仏像篇
- 9 写真でみる 仏像篇
- 10 図印集
- 11 索引・用語解説

- あらゆる仏・菩薩像、神像、印契を網羅

- 経典・儀軌に則った詳細な解説

- 図像と解説とを一目で対照できる懇切な編集

- 見やすく読みやすい大判B5構成

- 写仏のテキストに最適

- 仏教関係者・仏像愛好家、必備の大系

- 体裁 Ⅱ B5判／上製貼函入

- 各巻平均三〇〇ページ

- 発行 Ⅱ 昭和五十八年十一月末

- 定価 Ⅱ 五五〇〇円（分売不可）

*小社の刊行書籍は注文制になっています。最寄りの書店にご注文下さい。

発行所

お申し込みは

 国書刊行会

〒170 東京都豊島区巢鴨3-5-18
☎03(917)8287 振替東京5-65209

あらゆる仏・菩薩像、神像、印契を

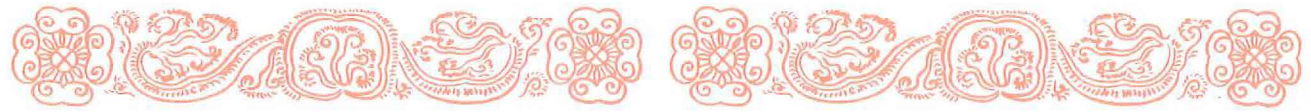
二〇〇〇点を超える図像・写真で網羅！

〈仏像のすべて〉を知る一大体系――



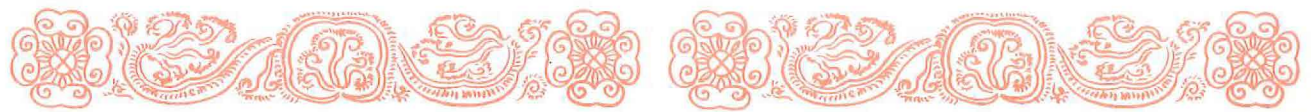
仏像大系 全11巻

国書刊行会編



近年、仏像を鑑賞する人々が増えている。そのための入門書や啓蒙書も数多く出版されている。しかし、仏像の本質とその真意を、経典、儀軌に基づいた正しい解説により明らかにした書はほとんどない。

本書は、本来の信仰の対象としての仏像を、古来よりの経典、儀軌に則った詳細な解説と図版・写真により明らかにする、本格的な仏像儀軌の大系である。この度の旧版全面改訂により、図像と解説とを対照できるよう、見やすく読みやすい構成とした。



経典、儀軌に則った詳細な解説。

図像と解説とを一目で対照できる

見やすく読みやすい構成。

大判B5編集。





編集の辞

小社は、先に『仏像図鑑』(国訳秘密儀軌編纂局編)『仏像綜鑑』(同編纂局編)『図印集』(田村武右衛門編)を復刻刊行し、好評を博してまいりました。

しかし該書は、復刻版のため、旧字旧仮名の上、図と解説との対照が不揃いであり、記述の誤りや誤植も多く、読者の方々から、新編仏像大系の刊行を望む声が高まっております。

このたび、大系的で、かつ明快を旨に、図と解説の同ページ・見開き対照、新字新仮名、解説の増補、誤植の訂正、大きな活字組み等々、全く新たな編集とし、ここに刊行の運びいたしました。

本書は、仏像を愛する方々の座右の書として、親しまれ、読みつがれるにふさわしい好著であると、自負する次第であります。

昭和五十八年十一月

国書刊行会

原本解説 『新纂仏像図鑑』国訳秘密儀軌編纂局編纂、昭和五十六年、仏教珍籍刊行会刊、和本五巻、昭和四十七年、小社合本復刊 『續仏像綜鑑』原題『国訳秘密儀軌・続図像部』第一―五輯、国訳秘密儀軌編纂局編、昭和九年、仏教珍籍刊行会・仏教図書刊行会刊、和本五巻、昭和四十八年、小社合本復刊、のちに改題して別出刊行 『図印集』田村武右衛門編、明治十六年、衆盛堂蔵版、和本二冊、図印集付録『普通真言集』明治十八年、沢湯堂版、昭和四十七年、小社合本復刊。

図でみる仏像篇

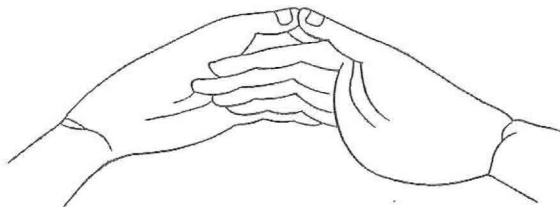
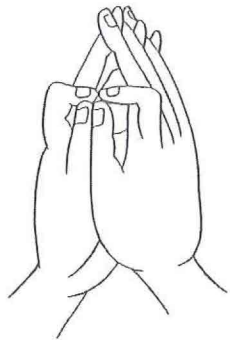
全4巻

好評を博した『仏像図鑑』(同編纂局編)の弊を全面是正し、図像と解説とを対照できるように再編集。一般的な仏像の名称・相容・誓願・功德・印相・真言等を平易に解説し、古来よりの相伝・装束・持物等を正確に引用。解説文を新字・新仮名に改めると共に、新たな解説を付し、なお一層の充実を計った。

- 1 天等篇・十二天・四天王・四大護・薬師十二神将・般若守護十六善神・十二宮・二十八宿・七曜・九曜・北斗七星・観音二十八部衆・諸天部・弁才十六童子・十羅刹
- 明王篇・五大尊明王・不動八大童子・五大力吼明王
- 2 菩薩篇・四波羅蜜菩薩・十六大菩薩・内四供養菩薩・外四供養菩薩・四攝菩薩・賢劫十六大菩薩・文殊八大童子・二十五菩薩
- 観音篇・六観音・三十三体観音・蓮華部使者
- 如来篇
- 3 祖师・先徳篇・印度部・支那部・日本部／三国仏教史
- 4 九品の弥陀・密教の弥陀・弥陀六尊・七仏薬師・十三仏・十二光仏・六地藏・六斎日本尊・三十日秘仏・六大黒・一代守本尊・福神・高野山四社明神・山王七社明神・三十番神・雑尊・釈迦尊像絵詞伝・先徳篇補遺・仏像の持物及び装束法具／印契略解／仏教の大意

写真でみる仏像篇

全5巻



全国寺院等に現存する諸仏尊および祖師先徳達の像に、儀軌による解説を付した写真集成。従来の『写真仏像綜鑑』(同編纂局編)を全面改訂。写真を鑑賞しつつ、仏像・尊像の種類と形、材質と技法、様式の変遷、製作者など、解説を通して仏像の正しい見方がわかる。

図 印 篇

全1巻

仏・菩薩等の諸尊が内誓を表現するものとして、古来より重視されてきた印契を、図解によって紹介し、新たに解説を付した。『図印集』(田村武右衛門編)の改訂増補版。

索引・用語解説

全1巻

全巻索引、および重要用語の解説。ことたびの新編集にあたり、内容を一新した。仏像をめぐる仏教辞典として利用できる。

十二天(帝釈天)



帝釈天①



帝釈天②

帝釈天は梵名を釈迦提桓因陀羅(Sakradevanam Indra)または釈迦提婆因陀羅(Sakra-deva-indra)と云い、釈迦能と訳す。すなわち釈迦は姓にして能と翻じ、提婆は天、因陀羅は帝なり、故に能天帝なれどもこれを帝釈天と訳す。法華玄讃には「梵に釈迦提婆因陀羅という、釈迦は姓なりこれに翻じて能という、提婆は天なり、因陀羅は帝なり、正しくは能天帝といい、釈提桓因、天帝釈というはともに訛倒なり」と。十二天および施八方天の一にして須弥山の頂上喜見城に住し、忉利天における他の三十二天を統御す。この天の居城喜見城の外角には善法堂あり。諸天この処に集って四天下の善悪を商量し、また喜見城の内には殊勝殿ありて無限の財宝をたくわえ、喜見城の外部には衆車苑、麤悪苑、雜林苑、喜林苑の四苑あり、不思議の力を与うという。故に帝釈天は人間に財宝を与え、靈力を授くる施福の神として民間に信仰せらる。またこの天は十二天報恩経に「天帝釈は地居の主、衆生の所作の善悪を注記す、この天喜ぶ時は国土安穩にして人民乱れず、この天瞋る時は刀兵相闘し諸王みなことごとく安からず」とある如く、地上の守護神にして、つねに天上の守